

令和4年度大型再処理施設放射能影響調査事業評価結果

1 活動指標及び活動実績

活動指標	当初見込み	活動実績
実施機関の研究者が発表した論文や実施機関が公表した報告書、データの件数	36 件	59 件
県民に対して行った、本事業やその成果を周知するために実施した講演やイベントの開催数	31 回	56 回
県民に対して行った、本事業やその成果に関する理解醸成活動（講演、イベント）への参加者数	1,400 人	2,755 人

2 成果目標及び成果実績

成果目標	成果指標	目標値	成果実績	達成度
実施機関が行う研究活動について、研究成果の創出と国内外の研究機関との連携を強化し、実施機関の国内外での評価の向上を図る。	実施機関の研究者が国内の行政機関や国際機関の実施する会議等に委員として参画した件数	27 件	81 件	300%
理解醸成活動として、研究成果や調査結果を分かりやすく発信し、地域住民の信頼の獲得を図る。	理解醸成活動の参加者に対して実施するアンケート調査において、実施機関や、その発信する情報への信頼について質問し、好意的な回答をした参加者の割合	80%	90%	112.5%
大型再処理施設が設置されている地方自治体が、施設から排出される放射性物質による影響に関する詳細かつ継続的な調査を行い、地域住民の安全・安心の確保を図る。	地域を代表する地域共創委員会の構成員に対して実施するアンケート調査において、本事業の安全・安心への貢献を質問し、10段階で評価された平均点	8	8	100%

3 大型再処理施設放射能影響調査事業企画評価委員会評価結果

調査事業名	総合評価
排出放射性物質による環境影響に関する調査（海域部分を除く） （公益財団法人環境科学技術研究所委託事業）	S
[委員長とりまとめコメント] 昨年度と比べて査読付き論文数が飛躍的に増えており、優れた成果を上げていると評価する。 排出放射能環境影響調査では、六ヶ所村の地域特性を踏まえた放射性物質の挙動について研究成果が蓄積されている。 放射性物質異常放出事後対応調査では、環境中に放出された放射性核種の食物を介した摂取とこれによる被ばく線量の見積もり、さらにはこれらの低減につながる重要な情報が得られつつあるものと評価する。ルテニウムを含む特徴的な核種に本調査が着目している根拠や本調査からもたらされる波及効果について強調していただきたい。	

調査事業名	総合評価
排出放射性物質による環境影響に関する調査（海域部分） （公益財団法人日本海洋科学振興財団委託事業）	A
<p>[委員長とりまとめコメント]</p> <p>海洋観測とそれに基づくモデルの改良評価が順調に進んでいる。また、海洋観測により得られた貴重なデータは、関係研究機関等や住民に対しても提供され、研究の理解醸成にもつながっている。</p> <p>今後は、今までの観測結果やモデル研究等の成果を論文にまとめることにも期待する。</p>	
調査事業名	総合評価
低線量率放射線による生物影響に関する調査 （公益財団法人環境科学技術研究所委託事業）	S
<p>[委員長とりまとめコメント]</p> <p>世界的にも貴重な低線量被曝影響についての研究成果が積み上げられている。影響の修飾要因として「先天的」なものだけでなく、「後天的」なものも取り上げている点を評価する。</p> <p>これまでのマウスによる研究成果をヒトに対してどう当てはめるのかについて、より丁寧な説明を検討し、地域住民の理解につなげていただきたい。</p> <p>研究成果の論文化をもっと積極的に進めて欲しい。</p>	
調査事業名	総合評価
トリチウムの影響に関する調査 （公益財団法人環境科学技術研究所委託事業）	A
<p>[委員長とりまとめコメント]</p> <p>様々な化学形のOBTについて環境中挙動、体内挙動等の情報が蓄積しつつあり、着実に成果を上げている。</p> <p>トリチウムは地域住民の関心が高いテーマであるため、第三者専門機関の観点からも、研究成果の積極的な広報を期待する。</p> <p>施設から放出されるHTOのうち、どれほどがOBTに変換されるかを見積り、トータルとしてどれほどの影響を与えるかを評価していただきたい。</p>	
調査事業名	総合評価
小児がん等がん調査 （青森県健康福祉部所管事業）	A
<p>[委員長とりまとめコメント]</p> <p>がん発症に係る長年にわたるバックグラウンドとなるデータが蓄積され、広く公表されており、着実に成果を上げている。</p>	

調査事業名	総合評価
理解醸成活動 (公益財団法人環境科学技術研究所委託事業)	A
<p>[委員長とりまとめコメント]</p> <p>関連機関との連携を図り、成果報告会や地域共創委員会等において、「双方向コミュニケーション」が実践されている。</p> <p>各研究部門においては、住民の方々の関心が高い成果が得られつつあることから、住民の方々からのニーズを吸い上げると同時に、発信すべき情報を集約し、分かりやすい情報として取りまとめる仕組みを整備する等、更なる取り組みを期待する。</p> <p>理解醸成活動の成果を評価するための指標として、長期的、根本的に理解が醸成されたことを反映するような指標について検討いただきたい。</p>	

(参 考)

評価の視点	評価の尺度
(1) 優れた研究成果が上がっているか。 (2) 地域の期待に込んでいるか。 (3) 社会的ニーズに合致した成果が挙げられているか。	S：想定を上回る優れた成果を上げている。 A：基本計画及び実施計画に基づき着実に成果を上げている。 B：基本計画及び実施計画通りに成果を上げているとは言えない面もあるが、今後の取組みにより基本計画及び実施計画に基づく成果を達成し得ると考えられる。 C：基本計画及び実施計画に基づき成果を上げるためには、実施方法等の大幅な見直しが必要である。